

保育士からの転身

ボートレース宮島で2月28日(火)から3月5日(日)まで開催されるGⅡ第1回レディースオールスターにファン投票で選ばれた向井田真紀さん。

以前は、保育士として働いていた真紀さんですが、今では男女が同じ舞台で戦う、ボートレースの世界に身を置きます。

転機が訪れたのは、先に訓練生になっていった弟の直弥さんが、福岡県にある「やまと学校」(ボートレーサー養成学校)の現地訓練で出走している姿を見たとき。間近で見たボートレースのスピード感と迫力あるエンジン音、そして何よりも一生涯

ボートレースの魅力はエンジン音とスピード感



命走る選手の姿に魅了されました。ボートレーサーとして歩むことを決めた真紀さんは、倍率約40倍の難関を突破して、やまと学校に入学しました。

弟の存在

訓練生時代、厳しい練習に心が折れそうになることも。そんなとき、既にボートレーサーになっていた直弥さんからの手紙が届きました。

その手紙には「暁の前には必ず闇がある」と書いてありました。「どんな一流選手も必ず通る道。みんなそこを乗り越えていくんだから頑張れ」という意味が込められた弟からの励ましの言葉を支えに、つらい時期を

乗り越えた真紀さん。今でも、真紀さんはこの言葉を大切にしています。

後に真紀さんのもう一人の弟(直弥さんの兄、佑紀さん)もボートレーサーになり、現在は姉弟3人で活躍しています。

「家でも弟たちとレースの話をしています。時には怒られることもありますが」と笑います。

今後の夢を聞くと「男性レーサーのスピード感はすごい。自分も腕を磨いて、男性にも負けないレーサーになりたい」と話してくれました。



レースに出走する向井田真紀さん。(GⅢジャパンネット銀行プリンセスカップ)



上のQRコードを読み込むと市公式ホームページに飛びます。真紀さんのボートレースへの思いなども含めたインタビュー動画を3月1日(水)に掲載しますので、ぜひご覧ください。

はっかいら人 vol.15

廿日市市で輝く人を紹介します

ボートレーサー 向井田 真紀さん (29歳・峠)

編集後記

2ページに登場していただいた山下さんに、坂村真民さんの「二度とない人生だから」という詩を教えてもらいました。せつかく生まれてきたのだから、幸せだと感じられる時間を大事にしたいなあと思わせてくれる詩です。

特集で取り上げた「健康」とその後続く「人権啓発シリーズ」。協力してもらった皆さんの「一人でも多くの人に伝えたい」という熱意を取材しながら感じ続けていました。どちらも自分の命や幸せを大切にしたいという気持ちが根本にあるのだと思います。

日差しや風に春の香りを感じられるようになり、冬の寒さに縮こまっていた体も目覚めるようです。寒い冬を乗り越えるからこそ、春の喜びが大きくなると信じて、今後も歩んでいきたいと思っています。 吉岡里奈

今回取材させていただいた向井田真紀さん。目を輝かせながらボートレースの魅力話を話してくれました。

自分の好きなことを職業にできて幸せに思えます。しかし、そこに辿り着くまでの道は決して平坦ではなく、困難を乗り越えてその場に立っていると思いました。プロ選手である以上、結果を残さないといけない厳しい世界で、真紀さんの戦いは今も続きます。

夢のために自分の信念を貫き通す、真紀さんの芯の強さを感じました。

西園秀治

目の不自由な人のため

■ 音声読み上げのための「広報はっかいら」テキスト版をホームページに掲載しています。
■ 「広報はっかいら」のコンテンツ、アプリ、アイコン、イラストが掲載されています。問い合わせ先 社会福祉協議会 ☎0294

発行 廿日市市 〒738-8501 広島県廿日市市下平良一丁目11番1号
編集 分権政策部 総務政策課 広報統計グループ
ホームページアドレス http://www.city.hatsukaichi.hiroshima.jp/
フェイスブックアドレス http://www.facebook.com/hatsukaichicity